

Tuna-Kaiと12人の作家展開催



11月11日から12月4日までの金土日曜日に、虹別の手作りクレヨン工房Tuna-Kai主催の「Tuna-Kaiと12人の作家展」がえんの森交流館で開催されました。Tuna-Kai工房では自然の中から色を取りだして、天然素材だけでクレヨンや絵の具を作っています。化学物質過敏症で絵を描くことが出来ない子どもに出会ったのがきっかけで、製品化までに十年かかっています。

画材にこのクレヨンと絵の具を使って12人のアーティストが30数点の作品を出品しています。2015年7月に旭川で最初の作品展が開かれ、その後おもに道東各地を巡回して、浜中が最後の展示会場となりました。

金曜日のカフェの日、また、11月25日には隣接する西円農民研修センターでフリーマーケットも開催されたので、多くの方に来場していただきました。



最終日の12月4日には絵本作りのワークショップが開かれ、世界にひとつだけの素敵な絵本がたくさん生まれました。

風連川流域住民へのアンケート調査

道の林業試験場では、風蓮湖に流入する河川の流域保全対策が、その地域の酪農や漁業に与える影響についての研究を行っています。試験場の長坂晶子さんが上流域・下流域という違いや農業・漁業ということが住民の意識にどんな影響を与えているか把握するため、身の回りの自然環境や身近な生きものを通じての聞き取り調査を行いました。しかし聞き取りでは調査数が限られるため、一昨年、浜中・別海の酪農家300戸、風蓮湖関係の漁家150戸を対象にアンケート調査を行い、えんの森でこの業務を受託し、調査票の作成、配布・回収作業を行いました。

アンケート調査の結果については、昨年1月に札幌で開かれた、第30回ニッセイ財団 助成研究ワークショップ「森里川海の物質の環・地域住民の環の再生を考える ～北海道東部・風蓮川流域における事例から」で発表され、浜中でも10月11日に開催された「海と湿原のつながりフォーラム」において一部紹介されています。また、この3月には、風蓮川プロジェクトの研究全体が本として出版されることになっています。書名(仮題)『「森里川海のつながり」のしくみに迫る 一物質循環・地域住民の環の再生をめざして-』

大変多くの酪農家の方にご協力いただいているので、長坂さんに来ていただいて、春に報告会を開催する予定です。また、えんの森で事務局を担当しているはまなか農地・水保全協議会では、昨年、町内各河川の魚類調査を実施していますので、こちらの調査結果もあわせて報告致します。

三郎川魚道その後



2014年10月に再建された三郎川魚道。2016年は大雨が続き、十勝などでは大きな災害をもたらしました。三郎川魚道も完全水没する日が何日も続き、また被害を受けるのではないかと心配されましたが、流されることなく役目を果たしております。

ただ、土壌の砂が流亡してかなり痩せてしまっているため、今年は土壌の積み増し、網の張り直しなどの補修作業をするようになります。

かもしれませんが、その際にはまた皆様にお手伝いをお願いすることになりますが、よろしくお願い致します。



16年8月23日、降雨直後は右手の草地も水没

9月4日、10日以上経っても高水位が続く



魚道 15年7月、平常時の様子



フォトエッセー

まきばを渡る風 Vol.6

「北海道との出会い」 菅井喜久雄



●東京での高校時代はSLを見に手近な会津などによく通っていましたが、蒸気王国北海道は陸続きでないこともあって遠い存在でした。ましてやそこに住もうなんて思いもしなかったのですが、高校2年の夏休みに東北を旅行中、台風の接近から逃れて一日だけ北海道に渡ったのが運の尽き。春休みには周遊券で道内を巡っていました。●二十歳の時に酪農実習生として浜中に来て40年。今でも毎日新鮮な景色との出会いにワクワクしています。牛との暮らしの他、キツネやエゾシカ、牧場に来るタンチョウをはじめとする野鳥や様々な植物。ちょっと出かけると、会いたくなくてもいろいろなものに出会ってしまう。大地と空が一体となる朝日、夕日。目の前の手も見えない漆黒の闇があるかと思えば、数キロ先まで見渡せる月明かり、雪明かりの明るい夜。そしてとてつもなく広く、心地よく、また楽しいところです。身の回りの何気ない小さなことに感動出来る喜びも。●近年、熊の出没が多く騒ぎになったりしていますが、まだ遠目でも出会ったことがありません。今年はヒグマを見に、こちらから出かけてみましょうか。

えんの森ホームページについて

えんの森のホームページは、更新作業中の不具合により、現在見る事が出来なくなっています。新規に作り直しをしていますので、今少しお待ちください。



あなたの力を貸してください。

NPO法人えんの森の活動は、会員の皆様の力で支えられています。2016年12月1日現在、正会員(社員)26人、サポーター会員92人、団体会員14団体。ご支援に心から感謝します。

■サポーター会員 年会費2,000円 ■団体会員 年会費1口10,000円(1口以上)

■会費・寄付の口座

- 大地みらい信用金庫 浜中支店 普通1035531 特定非営利活動法人えんの森 理事長 小椋 守
- JAバンク 浜中町農業協同組合本所 普通0014728 NPO法人えんの森 理事長 小椋 守
- 郵便振替口座 02760-2-80105 NPO法人えんの森

★団体会員：飛鳥苑、蝦夷三官寺學研究所、(株)興和工業、コマツ道東(株)釧路支店、三光産業株式会社、日本配合飼料(株)、日本全薬工業、(有)浜中町就職者研修牧場本場、浜中町農業協同組合、北海道オリオン(株)浜中営業所、(株)丸夕村田商店、NPO法人EnVision環境保全事務所、(有)矢原電設、(株)鈴久名牧場(敬称略)

NPO法人えんの森ニュースレター「えんの森通信」第7号(2017年2月発行)

En no mori News Letter No.7 February 2017

■発行 ■ 特定非営利活動法人 えんの森

■編集 ■ 菅井喜久雄

■特定非営利活動法人えんの森事務局 北海道厚岸郡浜中町西円朱別西18線181番地

電話:0153-65-3020 ファクス:0153-65-3021

電子メール: enmori@least-shrew.jp

ホームページ: http://least-shrew.jp/enmori/



NPO法人えんの森

えんの森通信

En no mori News Letter No.7 February 2017



えんの森交流館オープン



旧西円保育所は2015年5月に「カフェちゃちゃまる」として隔週日曜日に営業していましたが、都合により昨年8月で閉じることになりましたが、新たに利用を希望する方がいたことから、より広くいろいろなことに使ってもらえるように、「えんの森交流館みずなら」として再スタートし、カフェも「森のカフェ」と名称・衛生責任者の変更をし、毎月第2第4金曜日にオープンしています。現在は冬期休業中ですが、マッサージやネイルサロン等が開かれています。



また、自然関係の調査研究等で当地を訪れる方が基地として利用出来るよう、シャワーブースなども整備する予定でいます。

次年度の利用申し込み(定期利用・1日のみの利用等)を受け付けています。利用を希望される方はお問い合わせください。また、お知り合いなどに場所を探している方などがいらっしゃいましたらご紹介いただければ幸いです。

第5回 総会開催

今年も開催が大幅に遅れましたが11月5日、第5回通常総会が西円朱別農研センターで開催されました。総会は、議決権者出席と委任状の提出を得て成立。小椋理事長の開会のあいさつで始まり、議長、議事録署名人を選出の後、議案に入り、第1号平成27年度事業報告、第2号平成27年度収支決算、第3号会計監査、第4号平成28年度事業計画案、第5号平成28年度収支予算案、第6号・7号その他事項としてえんの森交流館運営について報告されました。すべての議案は可決、承認されました。

＜役職員＞

- 理事長 小椋 守
- 副理事長 鈴久名敬男
- 理事 垣内勇人
- 理事 甲斐沼淳一
- 理事 中川大介
- 理事 菅井喜久雄
- 監事 目黒耕次

平成27年度決算および28年度予算、事業計画

27年度決算 (単位・円)	28年度予算 (単位・円)	28年度の主な事業計画
収入計 1,834,544	収入計 7,295,795	●丸佐川・三郎川の自然環境情報の整備
支出計 926,291	支出計 1,538,964	●えんの森交流館・旧西円小校舎の活用
次期繰越財産 5,825,795	収支差額 5,756,831	●自然観察会の実施・町内NPOとの連携